

創刊号として、河口堰を守るために活動する団体の発行する情報誌です。河口堰は昭和46年に完成してから、利根川下流域の開拓や農業生産の発展に大きな役割を果たしています。しかし、近年では河口堰の機能低下や河川環境の悪化が問題となっています。この誌では、河口堰の歴史と現状、その課題に対する取り組みなどを紹介します。



水位・塩分観測所



閘門(船通り)



河口堰制水門

創刊にあたって

河口堰だより

発行所
水資源開発公団
利根川河口堰管理所
0478-99-0467

利根川河口堰の紹介

利根川河口堰は、昭和46年の管理開始以来、今まで堰の管理を順調に遂行できました。この「河口堰だより」は創刊致しました。

この「河口堰だより」は創刊号で、今後年4回発行していく予定です。その間、「河口堰だより」で地元の方々より地元の文化、歴史等を紹介します。また、河口堰に関する様々な情報の発信を目指すものとして、河口堰の管理者である利根川河口堰管理所との双向の情報交流の場として御利用いただけますよ。

利根川河口堰管理所長の横田雅良です。利根川河口堰は、昭和46年の管理開始以来、今まで堰の管理を順調に遂行できました。この「河口堰だより」は創刊号で、今後年4回発行していく予定です。その間、「河口堰だより」で地元の方々より地元の文化、歴史等を紹介します。また、河口堰に関する様々な情報の発信を目指すものとして、河口堰の管理者である利根川河口堰管理所との双向の情報交流の場として御利用いただけますよ。



ハクレンという魚が存じですか？ 全長1.5m以上に成長するのも珍しくない巨大魚です。5月下旬頃、大雨が降ったあの晴れた日に、この巨大魚が集団でジャンプしてきました。

魚の暴走族？ ハクレン

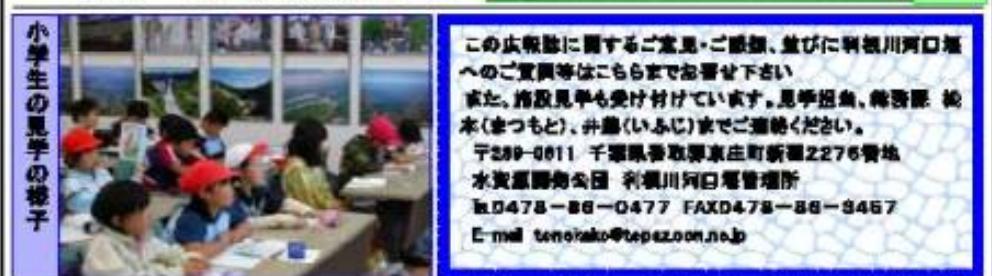
河口堰の四季

ゲートの下流に現まる ハクレン

普ながら川をのぼっていく姿が利根川河口堰下流でよく見受けられます。そのジャップたるや津まじく、あまりにシャンブリまして川から岸に着地してしまうことも珍しくありません。

故曰のハクレンが上流の栗橋付近の扇形場所を目指して、堰のゲートを飛び越え、魚道をジャンプしてのぼっていく姿は他を圧倒します。まさに魚の暴走族です。

ハクレンは、アオコなどの植物プランクトンを餌とし、成長が早いことから、第二次世界大戦中の国民の動物性蛋白食料源として中華人民共和国から輸入されたソウギョ類の淡水魚で、昭和16～20年にかけて全国の養魚池、ため池、湖沼、河川などに放されましたが、繁殖



今回の広報誌に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等はこちらまでお寄せ下さい。また、沿岸見学も受け付けています。見学者、希望者、検査(車両)、井巣(いふじ)までご連絡ください。
〒359-0611 千葉県香取郡東庄町新郷2276番地
水資源開発公団 利根川河口堰管理所
TEL 0478-86-0477 FAX 0478-86-3467
E-mail tenukako@tepe.zion.ne.jp

小学生の見学の様子



編集後記





イベント案内

受付に集まつた参加者
水の週間
イベント
利根川
第一期改修
発祥の地

利根川河口堰の広報紙
「河口堰だより」では、「利根川下流沿川紀行」と題して、毎回、利根川下流域の歴史や地域の話題などを、地域の方々に紹介して頂きます。

第一回の今回は、利根川愛好会会長の林敏夫さんよりの投稿です。明治29年に旧河川法が制定され、それまで各府県がそれぞれに実施していた利根川の河川工事を、

利根川河口堰管理所では、水の週間(8月1日～7日)にちなんで8月3日前半から午後4時まで施設を一般開放し、千葉用水総合管理所と共同でイベントを開催しました。

このイベントは今年初めて実施するもので、施設内の見学を通して水の週間、利根川や墨部川、利根川河口堰、千葉用水総合事業の役割をロドリ、

地図に親しまれる水資源



船内体験施設
10ミリ、30ミリ、50ミリ
の雨量が体験できます。

利根川河口堰管理所では、水の週間(8月1日～7日)にちなんで8月3日前半から午後4時まで施設を一般開放し、千葉用水総合管理所と共同でイベントを開催しました。雨水体験、船上からの河口堰見学、全国水の飲み比べ、水質分析体験教

には第一期改修工事が開始されてから百年に迎えたことを契機として、利根川第

時、一革両得の成果を挙げたとして高く評価されたとのことです。

平成12年(西暦2000年)には第一期改修工事が開始され、これまで各府県がそれぞれに実施していました。

利根川河口堰は昭和46年に管理を開始してから32年が経過しました。

この間、利根川下流域の塙を防ぐことで、地元の地域の発展に寄与してきました。

また、利根川河口堰により安定的に取水できるようになつた水は、年間45億tに及び東京都、埼玉県、千葉県の各地域約340万人の生活を支えています。



船上からの堰見学
まじかから見る水門は
とても大きいものです。

このイニシアチブは、今年初めて実施するもので、施設内の見学を通して水の週間、利根川や墨部川、利根川河口堰、千葉用水総合事業の役割をロードマップで示しました。

利根川河口堰は昭和46年に管理を開始してから32年が経過しました。

この間、利根川下流域の塙を防ぐことで、地元の地域の発展に寄与してきました。

また、利根川河口堰により安定的に取水できるようになつた水は、年間45億tに及び東京都、埼玉県、千葉県の各地域約340万人の生活を支えています。

利根川河口堰は昭和46年に管理を開始してから32年が経過しました。

この間、利根川下流域の塙を防ぐことで、地元の地域の発展に寄与してきました。

また、利根川河口堰により安定的に取水できるようになつた水は、年間45億tに及び東京都、埼玉県、千葉県の各地域約340万人の生活を支えています。



水質実験コーナー
利根川、墨部川の水で
水質実験を行いました。



利根川河口堰管理所
職員一同
感想が寄せられました。

利根川下流沿川紀行

国で実施することになりました。
そして、利根川の本格的な治水工事として、明治33年(西暦1900年)、第一期改修工事が現在の佐原市から河口にわたる区间で施工されました。

この治水工事は、浚渫、埋め立てと築堤よりなり、後塵、埋め立てにおいて英國製の浚渫船「英城号」、「千葉号」の二隻が活躍しましたと伝えられています。人力と浚渫船により浚渫された土砂は、約20万8千tに及び、築堤だけではなく周辺の埋立にも利用されました。第一期改修工事は明治42年に完成しましたが、洪水防御だけではなく土地造成も行つたといふことで、当

時、一革両得

の使命を果たす

ことになりました。

この間、利根川下流域の

流域全体を耕野に利水者の苦様や地域の二度目踏まえ

て事業を進める体制を充実します。

豊富な専門知識・高い技術力・相応の経験を有する意欲的な人材を育成し、総合力に優れた水のプロ第四回を目指します。

現場監視や流域とともに歩む意識を徹底し、流域の実情に詳しく述べられる職員を育成します。

「コスト意識をさらに徹底し、樂しい事業運営により工期を進めます。

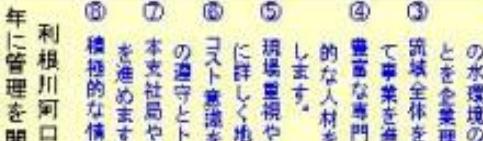
① 本支社局や現地事務所の相談のスムーズ化と業務の効率化を進めます。

② 積極的な情報収集に努め、透明性のある経営を行います。

「私の担当」といわれる第二回目の開拓、水質面を重視して事業を進める方針に対応し、課題を抱め



モニュメント



発祥の地石碑



(利根川愛好会会長
林敏夫氏)

短信・河口堰
水資源機構がスタートします

「私の担当」といわれる第二回目の開拓、水質面を重視して事業を進める方針に対応し、課題を抱め

るやうに、多くの親子から「楽しかった。」「来年もやつてほしい。」といった感想が寄せられました。